

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600535		
法人名	有限会社 ハーベストライフ		
事業所名	グループホーム みのり	ユニット名	1階
所在地	静岡県三島市南二日町650番地1		
自己評価作成日	平成22年1月15日	評価結果市町村受理日	平成22年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270600535&SCD=3>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年1月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特段一つに力を入れている事ではなく、一人ひとりの入居者様に対して何もできない人何もわからない人と考えるのではなく、一人ひとりを尊重し、出来ること、出番・役割などを大切に、日々の関わりの中でその人らしさを少しでも実現できるように、生活を大切に考えサポート(支援)させて頂いております。ご家族様に対しても、交流の機会を大切にホームの活動への理解や、支援の姿勢などを理解して頂けるように日々進んでいけるように活動しています。入居者様、ご家族様、関わりを持ち支えて頂いている方々に対し、近く感じて頂ける存在になれるように日々一つ一つ少しずつでも前進できるように、立ち止り振り返り前を見ながらみのりスタッフ一同チームとして、その目標に向かって日々入居者様と生活をしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長のホーム運営への熱い思いを職員全員が受け止め、利用者・家族・職員間の信頼関係を築き「もう一つの我が家」実現に取り組んでいる。運営推進会議の定期開催と有効活用が図られ、地域との交流も自治会を通じて隣組への参加や地域行事・ホーム行事での友好関係作りなど活発に行われている。職員間での気付きを共有し介護計画と生活記録表の連動による定期的なモニタリング、終末期対応の取り組みなど高いレベルでのホーム運営が行なわれている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600535		
法人名	有限会社 ハーベストライフ		
事業所名	グループホーム みのり	ユニット名	2階
所在地	静岡県三島市南二日町650番地1		
自己評価作成日	平成22年1月15日	評価結果市町村受理日	平成22年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270600535&SCD=3>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年1月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特段一つに力を入れている事ではなく、一人ひとりの入居者様に対して何もできない人何もわからない人と考えるのではなく、一人ひとりを尊重し、出来ること、出番・役割などを大切にし、日々の関わりの中でその人らしさを少しでも実現できるように、生活を大切に考えサポート(支援)させて頂いております。ご家族様に対しても、交流の機会を大切にしホームの活動への理解や、支援の姿勢などを理解して頂けるように日々進んでいけるように活動しています。入居者様、ご家族様、関わりを持ち支えて頂いている方々に対し、近く感じて頂ける存在になれるように日々一つ一つ少しずつでも前進できるように、立ち止り振り返り前を見ながらみのりスタッフ一同チームとして、その目標に向かって日々入居者様と生活をしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「実りある最良の生活を収穫する」という運営理念の下に地域の行事に触れながら、入居者様がもう一つの我が家と感じられるよう快適な生活を目指し支援しています。	ホーム運営理念の実現を目指し、施設長の思いを職員全員が受け止め、利用者の「もう一つの我が家」実現に向けて、利用者・家族・職員間の信頼関係を築き、普通の生活が送れるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の行事やお祭りにふれたり、施設の納涼祭や子供シャギリ、鶯の方による梯子乗り、日々のレクリエーションボランティアなど、地域の方の交流を得られています。	ホーム納涼祭には近隣の参加もあり施設リビングでの交流や、地域行事やボランティアの交流も活発に行われている。自治会を通して隣組加入や、高校生の福祉体験、教育研修なども進められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じ、地域資源や支援できることなどを民生委員さんなどと相談し、回覧板などで呼びかけるなど価値のある地域資源社会資源になれるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い、取り組みの報告や問題点について意見交換をすることで、より良いサービスが提供できるよう意見を活かしています。	運営推進会議は年間開催日を決め定期開催が行われている。地域住民や行政関係者・家族・利用者などの参加の下で、ホーム取り組みや課題などの話し合いが行なわれ有効に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での話し合いや、介護保険の更新手続きや書類を直接持参することで、コミュニケーションが取れる様に努め、情報収集や相談アドバイスを頂ける様に心がけています。	運営推進会議での連携や、更新手続き・書類手渡しなどで意見交換に努め協力関係を築いている。利用者の趣味の作製物展示場所に市役所ブース活用などが図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ間での声掛けや協力体制をとることで、施錠はしていない。身体拘束について正しく理解できるよう、勉強会を開くよう努めています。	ホーム全員が身体拘束をしないケアの意義を正しく理解しており、身体のみならず言葉や玄関開放、薬の弊害などのケアにも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止委員会を設置し、事業所内で防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護等の制度を必要としていない為、実施していません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に、施設の理念や考え方等を伝え、入居者様やご家族様の不安や疑問点について、時間をかけて説明を行い、理解や納得に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方が月に一度、市より訪問していただき、入居者様の不満や悩みなど、スタッフに言いにくい事を聞いてくださる機会を作ってくれています。ご家族様からは、ご意見箱の設置や電話や面会時に声を掛けてもらえるよう努めています	運営推進会議での話し合い、来訪時の面談、電話連絡、ご意見箱設置、介護相談員受け入れからの意見・要望等を確認しながらホーム運営に反映している。家族アンケートからもその好評価が窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーフとの話し合いや意見交換、カンファレンスを開き、方向性や問題点不安などを話し合う機会を設け、意見や提案を反映させることが出来るよう努めています。	日々のミーティング、申し送り、カンファレンスでの意見交換や施設長・チーフとの話し合いなどの機会を通じ職員の意見や提案をホーム運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の関わりの中で職員個々の状況については把握に努めています。職場環境、条件整備については少しずつだが進めてきています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に応じて研修に出てもらったり、状況に応じたコミュニケーションを取りながら、共に成長できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設での依頼による研修を受けさせて頂きチーフ達と共に講義を交流を図ったり、県の協会の仕事を通じて交流を図り、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、出来る限り自宅に出向きお話をさせてもらい、不安を解消できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や訪問時において、細かい説明や相談に乗らせてもらい、受容や傾聴を基本とし、信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に適したサービスの利用方法など、提供できる限りの助言に努めています。状況に合わせ、他の事業所への紹介や担当者に連絡を取るなど、より良いサービスに繋げられるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と介護者という関係だけでなく、一緒に食事を作ったり掃除をしたり、日常生活を支え合うことで、より良い関係を築けるよう努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にはご家族様にも声を掛けさせていただき、出来るだけ一緒に過ごしていただけるよう時間を作るように努めています。また、細かいことでもご家族様に報告や相談をし、ご家族様の思いに沿うよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に協力していただきながら、ご自宅への外泊や祭事への参加などに、出来るだけ触れることが出来るよう、また職員で対応ができる場合は職員が支援に努めています。	家族の協力を得ながらの墓参り、自宅外泊や、美容院などへの外出、馴染みの人達の来訪などの維持への支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者様に目や気を配り、必要に応じて介入をしながら、本人との架け橋になれるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的なアプローチはしないが、関わりを必要とする入居者様には、関係を断ち切らないよう支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室の担当職員が、利用者様との関係を密にすることで、本人の意向を把握、共有できるよう努めています。	日々の生活の中で利用者の小さなつぶやきからその思いをくみ取り、また、職員同士の気づきをミーティングや申し送り時に共有しながら利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に自宅に訪問させていただき、ご家族様に生活歴を聞いたり、前の施設からサマリー等の情報を提供していただくなどし、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室の担当職員が入居者様のことを深く知ることによって、現在の状況や問題点を共有、把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開くことで、スタッフ同士が意見の交換をしながら、多角的多面的な見方感じ方を取り入れ、ご家族様の要望も取り入れながら作成しています。	カンファレンスやミーティングを通して職員間の意見交換、家族の要望も取り入れて介護計画を作成している。週単位の生活記録表に介護計画と連動した支援経過が記録され定期的なモニタリングが実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化を個別のケース記録に日々記入し、必要に応じて申し送りノートを活用しながら、情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の施設であることを生かし、型にとらわれないサービスの提供、柔軟な対応に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源においては把握に努め、その都度活用させて頂きながら、実りある最良のよりよい生活が送れるよう、日々支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状やご家族様入居者様の希望を優先しながら、病院を選択し受診対応しています。	事業所の提携医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し通院介助支援を行なっている。協力医療機関による毎月の受診や24時間対応の医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員に週に一度健康チェックをしていただき、医療面での適切な対応が受けられるように支援しています。また、必要に応じた訪問看護の利用もさせていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院している病院に定期的に面会に行き、主治医や看護師に情報提供をお願いし状況の把握をし、早期退院に対応できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診や訪問看護、ご家族様とご本人様との相談を密にし、今後の対応や方針について、変化に応じて話し合い対応できるよう支援しています。	看取り対応の基本指針を確立し本人や家族、医者とよく相談し同意書も受理している。本人や家族が希望した場合、施設長や職員は出来る限りお世話したいとの考えを持っている。利用者の介護方針や対応は、医師と話し合いカンファレンスやミーティングを通して職員間の情報共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフの中に個人的に救急対応応急手当の勉強をしている者がいるため、施設内でも随時学んでいけるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をすることで、スタッフが避難できる方法を身につけることができるよう、努力しています。また 地域との協力体制が取れるよう働きかけをしています。	施設の災害訓練は年2回実施され、隣組合等を含めた地域防災訓練への参加も計画されている。事務所には、懐中電灯等も用意されているが非常災害用備蓄はこれからである。	非常災害時に備え、また、近隣住民への支援を含めて、災害対策として、食料・飲料水・生活用品等の備えを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人ひとりが入居者様の気持ちを理解することに努め、相手を傷つけることのないよう、言葉掛けについても十分配慮しながら対応しています。	職員は利用者一人ひとりの人格を大切に本人の気持ちを理解するよう配慮している。個人情報事務所に保管し適切に取り扱い、写真掲載の承諾等取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り入居者様の希望に沿う暮らしが出来るよう、支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣に近づけるような日々の過ごし方に努め、出来るだけ買い物など外出の機会も多く設けるようにしています。また、入浴の回数も増やせていけるよう検討しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望により訪問美容師の依頼や、お化粧の支援など、希望に沿ったおしゃれが出来るように支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューがマンネリ化しないよう、好みのもにに近い献立を考え、入居者様と一緒に準備や片付けを行なっています。	職員と利用者は一緒に食事の準備や片付けをして、「いただきます」の声で食事を楽しんでいる。91歳の男性は飲酒量に注意しながら毎日晩酌を楽しんでおり、家族からの感謝の声も聞かれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事量のチェックをし、状況によっては水分摂取量や食事内容を専用シートに記録し、適切な支援が出来るよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には出来る限り口腔ケアを心がけ、義歯の方については、每晚入れ歯洗浄剤にて清潔を保つよう支援しています。口腔内の変化などには主治医の歯科医師と相談報告しながら対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう、必要に応じた支援をしています。必要な方には排泄チェックをしています。	職員は日々の排泄チェック表から利用者一人ひとりのパターンをつかみ極力トイレに誘導して自立を支援している。薬の影響も考慮して誘導タイミングを計っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足による便秘を防ぐ為、食事の際以外にも必ず一日2回のお茶の時間には必要な水分をとり、毎日リハビリ体操やタオル体操を行い身体を動かす働きかけをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の曜日や時間はほぼ決まっているが、希望に応じた対応ができるよう検討しています。	入浴は週2回を基本に個々に合わせた支援を行なっている。嫌がる人には声かけの工夫やシャワーや足湯を進め、希望やタイミングを尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や習慣に合わせ、必要に応じて日中の静養を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録には服用薬の説明書が挟んであるが、日々の薬をセットする際どんな薬を服用しているのか把握出来るよう工夫に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や食事の片付け、配膳、掃除など個々のレベルに応じた役割が、ほぼ決まっています。また、レクリエーションにて小物作りや編み物など個々に合わせた支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や散歩の要望があったときなど屋外に出かけています。また、出来る範囲で戸外のイベントなどへ出かける支援もしています。	利用者の意向を尊重し、近隣の散歩の他、スーパー、三島大社の桜見学、幼稚園や保育園、近くの公園、美容院、通院、地域行事、四季のドライブ等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に数回、また入居者様の要望にて買い物に出掛けています。個々の残存能力に応じてお金を使うことを支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所から電話を自由に使用出来る様になっており、出来ない方にはスタッフが対応しながら支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除をまめに行い、常に清潔を保つよう心がけています。また、飾りや置物、チラシなどを工夫し、季節感を感じられるように工夫しています。	共有空間は、広く、明るく、清潔感にあふれ、食堂や壁にはホーム行事の写真、利用者が書いた絵や書き物の作品が飾られ、季節の花が穏やかな環境を整えている。各部屋の入口には、施設長が彫刻した楠の名札が掛かっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファを置き、誰でも自由に腰をかけることができ、日向ぼっこなどが出来るよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、ご本人様の使い慣れたタンスやベッド鏡台などを持参していただき、住み慣れた生活が継続できるよう支援しています。	個々の部屋には、それぞれの家族と相談された家具、備品、テレビ等が、持ち込まれ使い慣れ、馴染み深いものに囲まれていた。利用者も居心地よさそうで、明るい感じであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の目線やペースに合わせた生活を目指し、貼り紙などを利用しながら、出来るだけ最小限の介入で生活が出来るよう工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『みのりある最良の生活を収穫する』という理念の下、利用者様が家庭で過ごすような、暖かい「普通の生活」に近づける様な支援を目指しています	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の行事や地域のお祭りにふれたり、施設の行事に近隣の方をお招きする、地域の方にボランティアをお願いする、等で地域の方との交流を図っています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員様に、介護の専門職として力になれる事があれば呼びかけて頂ける様、願っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、地域の民生委員様、市役所職員様、有識者様をお招きし、運営推進会議を開催し、取り組みの報告や課題点などについて話し合い、サービスに生かせるようにしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での話し合いや、介護保険の更新手続きなどで市役所に出向いたり、GHの活動を紹介する場所を市役所に作って頂く等で協力関係を築いています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄間の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での声かけや連携で、常に利用者様の動きを見守り、施錠をしない、身体拘束しない体制を作り、施設長・管理者から身体拘束についての正しい知識を得ています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止委員会を設置し、事業所内で防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護等の制度を必要としていない為、実施していません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に施設の理念や考え方を伝え、入居者様やご家族の不安や疑問点について、時間をかけて説明を行い、理解や納得に努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方が市より訪問して下さり、入居者様一人一人に不満や悩みを聞いて下さっています。ご家族様には、いつでも要望等伝えて下さるよう、声掛けしたり、意見箱を設置しています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーフとの話し合いや意見交換、カンファレンスを開き、方向性や問題点不安などを話し合う機会を設け、意見や提案を反映させることが出来るよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の関わりの中で職員個々の状況については把握に努めています。職場環境、条件整備については少しずつだが進めてきています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に応じて研修に出てもらったり、状況に応じたコミュニケーションを取りながら、共に成長できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設での依頼による研修を受けさせて頂きチーフ達と共に講義を交流を図ったり、県の協会の仕事を通じて交流を図り、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、出来る限り自宅に出向き、ご本人とお話させて頂き、不安や要望を把握出来るよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて、細かい説明や相談に乗らせて頂き、ご家族様の不安・要望を把握できるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階で最適なサービスを提供できるよう、お話をさせて頂いています。状況により他事業所への紹介など、より良いサービスを提供出来るよう、努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	こちらから一方的に支援することなく、一緒に生活を営む仲間として、時には人生の先輩として教えて頂いたりしながら、より良い生活を目指しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にはご家族様にも声を掛けさせて頂いたり、毎月請求書と共に利用者様の様子をお伝えする手紙を添え、ご家族様とのつながりを大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に協力して頂きながら、ご自宅で過ごしたり、馴染みの方が、いつでもみのりに来て頂けるような支援に努めています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格・相性を配慮しレクリエーションしたり、必要に応じ間を取り持ち、利用者様同士が仲良く生活できるように支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的なアプローチはしないが、関わりを必要とする利用者様には、フォローや相談の支援に努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人に一人ずつ担当職員をつけて、担当職員を中心に、小さなつづやき、職員の気づき等も全体に申し送り、意向の把握に努めています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員を中心に、日々の会話・コミュニケーションの中から馴染みの暮らし方を知ったり、ご家族様から生活歴を伺ったり、前のサービス利用があれば、サマリー等で情報の把握に努めます		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーション・観察から現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士のより良いコミュニケーション、申し送りにより全員が現状を把握し、課題があればカンファレンスを開催し、ご家族様の意向も確認しながら、介護計画に反映させるよう努めています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づき等を個々のケース記録に記入し、変更・申し送り事項は全体の申し送りとして、文書・口頭で職員間で共有し、介護計画や日々のケアに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の施設であることを生かし、型にとらわれないサービスの提供、柔軟な対応に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源においては把握に努め、その都度活用させて頂きながら、実りある最良のよりよい生活が送れるよう、日々支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状やご家族様入居者様の希望を優先しながら、病院を選択し受診対応しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員に週に一度健康チェックをしていただき、医療面での適切な対応が受けられるように支援しています。また、必要に応じた訪問看護の利用もさせていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院している病院に定期的に面会に行き、主治医や看護師に情報提供をお願いし状況の把握をし、早期退院に対応できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診や訪問看護、ご家族様とご本人様との相談を密にし、今後の対応や方針について、変化に応じて話し合い対応できるよう支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフの中に個人的に救急対応応急手当の勉強をしている者がいるため、施設内でも随時学んでいけるよう努力している。消防所による、応急処置講習も検討しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をすることで、スタッフが避難できる方法を身につけることが出来るよう、努力しています。また 地域との協力体制が取れるよう働きかけをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のお人柄やこだわりを理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、利用者様の意向に沿い、自己決定して頂き生活して頂くよう支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健やかで穏やかに、安心して生活して頂ける様、体操・レクリエーションも日々のスケジュールに取り入れながら、余暇の時間は自由に過ごして頂ける様支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望により訪問美容師の依頼や、お化粧品・毛染めの支援など、希望に沿ったおしゃれが出来るように支援をしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューがマンネリ化しないよう、好みのものに近い献立を考え、入居者様と一緒に準備や片付けを行なっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事量のチェックをし、状況によっては水分摂取量や食事内容を専用シートに記録し、適切な支援が出来るよう努めています。また必要な食事量が摂取できるよう、飲み込み状況に応じ、食事形態を変える支援をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には出来る限り口腔ケアを心がけ、義歯の方については、每晚入れ歯洗浄剤にて清潔を保つよう支援しています。口腔内の変化などには主治医の歯科医師と相談報告しながら対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう、必要に応じた支援をしています。必要な方には排泄チェックをしたり、訴えが無い方は時間でお誘いして、失禁を防ぎます		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足による便秘を防ぐ為、食事の際以外にも必ず一日2回のお茶の時間には必要な水分をとり、毎日リハビリ体操やタオル体操を行い身体を動かす働きかけをしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の曜日や時間はほぼ決まっているが、希望に応じた対応ができるよう検討しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や習慣に合わせ、必要に応じて日中の静養を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	表を作り、目的や、効能等理解するよう努めています。誤薬のない様な服薬方法を取り、薬の増減・症状の変化も個人記録に記入し、確認を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や食事の片付け、配膳、洗濯たたみなど個々のレベルに応じた役割が、ほぼ決まっています。また、レクリエーションにてロールピクチャー・ちぎり絵等で、完成の喜び、気分転換をはかっています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や散歩の要望があったときなど屋外に出かけています。また、出来る範囲で戸外のイベントなどへ出かける支援もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に数回、また入居者様の要望にて買い物に出掛けています。個々の残存能力に応じてお金を使うことを支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所から電話を自由に使用出来る様になっており、出来ない方にはスタッフが対応しながら支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除をまめに行い、常に清潔を保つよう心がけています。また、飾りや置物、利用者様が製作して下さるカレンダー等で、季節感を感じられるように工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き、誰でも自由に腰をかけることができ、日向ぼっこなどが出来るよう工夫しています。また食事時は職員が座りますが、フリーの椅子があり、自由に座り自分がお話したい方とお話出来るようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、ご本人様の使い慣れたタンスやベッド鏡台などを持参していただき、住み慣れた生活が継続できるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の目線やペースに合わせた生活を目指し、貼り紙などを利用しながら、出来るだけ最小限の介入で生活が出来るよう工夫をしている。		